

I 実践

1 本校の人権教育の目標

(1) 経営方針

- ア 人権に対する理解と認識を高め、各教科、道徳、特別活動など学校生活全体の中で、人間的なふれあいを通して平等や人権尊重の精神の育成を目指す。
- イ 地域、学校及び生徒の実態を把握して人間関係の改善を図り、言語環境を整えることで、意欲的に生活や学習ができる集団づくりを目指す。
- ウ 他の人の立場に立ってその人に必要なことやその人の考えや気持ち等がわかるような想像力、共感的に理解する力の育成を目指す。

(2) 施策

- ア 全職員の共通理解の下に指導体制を確立する。
- イ 生徒の実態や悩みなどを日記指導（「私のあゆみ」）・教育相談や日々の観察等を通して的確に把握し、個に応じた指導をする。
- ウ スポーツフェスティバル・文化祭など各種行事や活動を通して感謝の心や思いやりの心を育てる。
- エ 学校HP・学年通信等を通して、保護者への理解・啓発を促す。
- オ 生徒たちが人権の重要性について、自ら考え、議論することができるような、充実した人権コーナーの設置をする。

2 実践内容

(1) 全校での取り組み

ア 全校道徳の実施

生徒指導主事による全校道徳は、学期のはじめに全学年を対象として校内放送で行った。「SNSとの関わり方」や「生きるということについて」など、学校全体で思いやりや他者理解の心について考え、人権意識を高めている。

イ あいさつ運動

毎週木曜日の朝に生活委員、生徒会本部役員、保護者の方々、部活動有志が中心となり、登校する生徒に元気にあいさつを行っている。このあいさつ運動はあいさつの大切さを知り、心のこもったよいあいさつができるようにするとともに、生徒同士、教師と生徒、保護者と生徒があいさつすることによって心を通わせ、好ましい人間関係をつくることができるようにすることをねらいとして行っている。



【資料1, 2 あいさつ運動】

(3) 学年での取り組み

ア 人権作文を通しての人権意識の啓発（1学年）

「人権作文」を1学年の夏休みの課題としている。人権について調べ、人権について考えたことや自分の思いを作文にまとめた。生徒は「いじめ問題」や「SNS上での暴言」、「女性差別問題」などの人権問題に対する意識を高めるとともに、人権は自分の身近なこととして捉える機会とした。

イ 2学年での鵜鳥舞の実施

ふるさと十王を愛し、未来に向かって、心豊かにたくましく生きる生徒の育成を目指し、総合的な学習の時間に鵜鳥舞の踊りの練習や、2年生1年生への継承を行っている。鵜鳥舞の活動を通して、踊りを仲間と教え合いながら覚えていくことで協調性を高めている。また、2年生が1年生に各部活動単位で踊りを教えることで、異学年交流を図り、互いを理解し、人間関係を深める場とした。



【資料3 鵜鳥舞練習】



【資料4 鵜鳥舞披露】

ウ 道徳・学級活動での取り組み

- (ア) 道徳…道徳部を中心に、授業の中で意見交換を通して自分の考えを再構築する授業づくりを行った。話し合い活動を通して他の人の意見や考えに触れることで、他の人の立場に立ってその人に必要なことやその人の考えや気持ちが理解できるような想像力、共感的に理解する力を育む機会を設けた。
- (イ) 学級活動…構成的グループエンカウンターやロールプレイング、アンガーマネジメントの実践を通して楽しく活動しながら相手の立場を考え、自分の行動を見直す授業構成を実践している。
- (ウ) 「私のあゆみ」…生徒の生活の様子や悩みなどを日記指導・教育相談や日々の観察等を通して的確に把握し、個に応じた指導を実践している。生徒の悩みを聞くことで、問題行動の未然防止や良好な人間関係を築くための手助けを行っている。



【資料5 道徳コーナー】



【資料6 私のあゆみ】

3 成果

- (1) あいさつ運動では、生徒主体で活動したことにより、当日にとどまらず日頃から「生徒同士」「生徒と教師」のあいさつが行き交い、好ましい人間関係をつくることができた。
- (2) 生徒指導主事による全校道徳は、全校生徒が人権意識を高めるとともに、他者を思いやることの大切さを再確認することができた。
- (3) 鵜鳥舞は同学年との交流だけではなく、上級・下級学年や教師とのふれあい活動を通して、思いやりや優しさといった人権尊重の意識を育てることができた。

II 今後の課題

道徳の授業において、自己理解が中心の活動になりがちだが、他者理解まで広げることができる、授業の展開を図ることが課題である。

III 人権コーナー設置の様子

